紙の弾丸

反帝斗争をプロレタリア日本革命へ
プロレタリア世界革命の不社学同に結集せよ！

1968.9.21.
社学同 西大支部

21. 伊丹斗争に決起せよ！
10.8 — 10.21 御堂筋突破を準備せよ！

12時 同志社 3/前 社学連集会 に結集せよ！
10.8 — 10.21 両度のストを勝ちとり、
三度び御堂筋に進軍せよ！

同志社の学友諸君！

本日の伊丹斗争に決起せよ！

伊丹大阪空港に於ける米軍使用の増大と新明和工業の軍用技術理の増大は、明きらかに、3・31ジョンソン声明以降のベトナム侵略の内容を明きらかにしている。即ち、ベトコンを中心とするベトナム人民の闘いは、米帝の支配体制を揺り動かしている。米帝は、ベトナム革命に対して、アジアに於ける侵略反革命戦争の無期限継続体制化を計らんとしている。その事の表現が、伊丹であり、日帝は、自己の安定と、来たるべき東南アジア侵略の要たる日米安保体制＝侵略反革命の防衛の為に、米帝に積極的に加担している。だが、我々は、反戦斗争の延長上に、空港斗争をすえてはならないし、又、反戦反安保斗争を、反米民族主義斗争におしこめてはならない。我々は、今や日本帝国主義的な侵略を開始せんとする時代に突入している事を確認しよう。

69年1月佐藤訪米を羽田で阻止せよ

日本帝国主義は、東南アジア全域に渦巻く侵略反革命の影響体制を組み立つつある。日本資本主義は、外的膨張期に突入し、第力国＝低賃金国獲得へ資本投下を開始している。この事は、当然にも低賃金国人民の反撃を生ずしめる。この低賃金国の革命的激動に対して、自国の軍隊を派兵する。（この表現は、三日三軍合同演習で示されんとしている。）日米帝国主義は、低賃金国への抑圧、侵略体系として、さらに、日米両人民への抑圧体系として、日米安保体制を再編、強化せんとしている。佐藤は、明きらかに、70年代の東南アジア軍事体制の布石を、新たな統一的体系にかこつけて、米帝との野合をむすぼうとするのだ。

11月沖縄斗争を貫徹せよ！！

沖縄をめぐる問題は、選挙では、解決しないし、それに望みをかける事は間違いである。何故ならば、日本帝国主義は、東南アジアに於ける侵略反革命軍事体制の要を、沖縄軍地に置かんとしている。さらに、現代帝国主義の政治的要たる核の問題をめぐっている。そしてさらに、東南アジア市場をめぐる日米資本主義の対立は日ごとに激化している。沖縄をおさえるものが、東南アジアに於ける侵略反革命の軍事体制のヘゲモニーを掌握するであろう。したがって、問題は、沖縄人民の解放は、日本復帰ではなく、一切の軍事機構の上に打ち立てられなくてはならない。

10・21国際反戦ゼネストを勝ち取れ！！

日本帝国主義は、安保の再編、強化を、東南アジア軍事体制化として確立せんとしている。ASPACで表現された事は、東南アジアの盟主たらんとする日帝につきつけられた問題であった。帝国主義と同盟を結ばんとする低賃金国民族ブルジョアジーと軍部政権は、強固な軍隊を絶叫請している。資本投下防衛の為にもそうである。この軍隊は自衛隊である。そして、そのこの機関紙は、独占ブルジョアジー官僚と軍部の結合であり、イデオロギーは社会排外主義である。この結合は始まり、社会排外主義は、労働運動の分裂と反米反共民族主義斗争として表現されはじめている。我々は、反撃を開始しなければならない。官僚と軍部の結合の環たる防衛庁への攻撃を、そして、西日本に於いては、それをおおう大衆的な実力斗争として御堂筋突破を。そして、70年安保斗争の頂点たる大衆ストと実力武装斗争の展開を勝ち取らねばならない。

再度、本日の伊丹斗争を呼びかける！！

我々は、本日の斗争を、以上の様な斗争に高めあげていかねばならない。総評、民同の路線と自分らを区別し、反戦反安保斗争を反帝斗争へ、日帝打倒斗争へ導け！
10.8を学生ストで押し切ち、10.21を準備せよ。昨日の羽田斗争を葬ろうとする者へ痛撃を！！